

## 『ザ・クラウン』から見た英国王室

大津 隆文

ネットフリックスで『ザ・クラウン』（全四十話）を見た。英国エリザベス女王の就任以来の歩みを軸に、王室の内情、歴代首相との関係等が赤裸々に描かれている。

エリザベスが王位に就いたのは、前々国王がいわゆる王位を懸けた恋を優先し、急遽その弟である父が後を継いだためであった。彼女にとっては想定外の展開であったが、女王として立派に職責を果たしているとの印象だ。

反面、その他の王室メンバーには色々問題がある。夫であるフィリップ殿下、妹であるマーガレット王女はナンバーツーの地位に苛立ち、あからさまな不満を女王にぶつける。

男女関係も乱れていると言わざるをえない。前述の二人に加えチャールズ皇太子等の不倫行為は衝撃的であり、見ていて苛立たい。自制心がなく、人間としての品格、徳に欠けるような感じた。とくにダイアナ妃については深く同情した。

女王には定期的に首相が政務報告をしており、登場する歴史上の人物の実像は興味深い。チャーチルは英雄老いたりで、イーデンは体調に問題があり、マクミランは気が弱く、ウィルソンはパーキンソン病で引退し、サッチャーと女王は反りが合わず二人の会話は緊張感溢れる。

王室と政府は「君臨すれど統治せず」の関係だが、政府側は外交等に王室の利用を図り、国際親善等のため王室は大きな貢献をしている。女王が政治的中立を外れたのは、英連邦の女王として南アフリカ共和国への経済制裁に賛成し、サッチャーと対立した時だった。

王室の生活は優雅で何一つ不足はなく幸せそのものに見える。だが当事者達にとっては生き方が定められており、その束縛から逃れられないのは人間性を否定されるような辛さかもしれない。特別扱いにより普通人の生活感覚は得られないのではないか。よほど注意しないと周囲への配慮に欠ける人格が形成されてしまう恐れがありそうだ。

見ているとつい日本の皇室のことが頭に浮んでくる。私には皇室の方がはるかに慎ましかで慈しみ深いと思われ、誇らしくかつ幸せに感じた。